

2023年度 自己評価・学校関係者評価報告書

2024年3月

学校法人亀ヶ谷学園

幼保連携型認定こども園・宮前おひさまこども園

① 園の教育目標

<ul style="list-style-type: none">・わくわく生き活きと輝き創造的にあそべる子ども・わくわく人が好きになり、人に好かれ、思いやれる子ども・わくわく響関の言葉が言え、秩序が気持ち良いとかんじられる子ども <p>→わくわく響き合える豊かなところをもった子ども</p>

② 本年度に定めた重点目標

<p>幼保連携型認定こども園であることを踏まえ、以下の3つを重点目標として定めた。</p> <ul style="list-style-type: none">・子どもたちの主体的なあそびや生活の実現・園内研修を通して課題解決を図り、保育の質を高め、保育者の専門性を深める。・在園時間が異なる子どもたちへの配慮について

③ 具体的評価項目の達成及び取り組み状況

項目	評価	取り組み状況
教育目標	A	園の教育目標については全ての職員が共感・理解し、日々の保育実践を通して実現できるよう努力して取り組んでいる。
保育計画	A	園内研修ではマップ型の週案に取り組むための基礎を学び、子どもの興味・関心から計画を立案できるように配慮している。引き続き、子どもたちの興味・関心について写真を活用して対話の時間を設けたり、ウェブマッピングの方法を用いて遊びが豊かになるような環境を考えたり、子どもの姿をベースにしながら質の高い教育・保育の展開を目指している。
保育環境	A	開園から5年が経ち、園舎・園庭を活動に応じてより豊かに活用できるようになってきた。アトリエとしての機能も玄関ホールやテラスで展開していきたい。また、宮前幼稚園の自然豊かなで広大な園庭も最大限に活用していく。
安全への配慮	A	リスクとハザードの考え方のもと、子どもが予測し対処することが難しい危険（ハザード）は0に、子どもが自分の力で乗り越えられるリスクのある環境の認識を使い分けながら、環境を構成することができた。
チーム保育・同僚性	A	年齢・経験年数が異なる幅広い保育者集団の中で、それぞれが尊敬の念を持ちながら接することを大切にしていきたい。業務上の課題については、建設的な話し合いを通しての解決を目指し、「最適解」を導き出す営みが定

		着してきた。 また、同僚性向上のために、大学教授に定期的に園内研修を実施していただき、法人としての重要課題として取り組んでいる。
保育内容・方法	A	職員間一人ひとりを大切にした保育実践を職員の目標としている。また行事を中心に、より子どもの主体性が尊重される保育内容へと転換してきて数年を迎える。これまで以上にブラッシュアップしていきたい。
保護者とのかかわり	A	ポートフォリオや写真等、可視化された記録を用いながら子どもの育ちを伝える取り組みが一定の評価を得ている。外部研修の講師を務めることも多数ある。子どもを真ん中に、園と保護者が手を取り合っけて子どもの育ちにかかわる関係性を築いていきたい。 また、昨年度副園長が大学院を修了し、論文を執筆した。
専門性の向上	B	コロナを契機に Zoom 等による遠隔研修に気軽に参加できるようになった。一方で、職員全体で集まる機会などが十分に確保できなかったことが課題である。昨年度より、視察にお越しいただくことが増えたため、さまざまな実践の場から学ぶ機会を確保していきたい。
食育	B	コロナウイルス感染拡大も落ち着き、子どもたちの食育活動も復活することができた。今後、自分たちで栽培した食材を使って調理など、食育活動を充実させていきたい。
子育て支援	B	すくすく広場も今年度よりも再開することができた。今後は宮前区との共催イベント（食育講座・子育て講座等）にも取り組んでいきたい。
地域との連携	B	認定こども園へ移行したことにより、これまで以上に川崎市や宮前区といった行政とのつながりが深まった。 子どもたちが地域に出かけたり、地域資源を生かしたりした活動が十分に行えなかった。

④ 総合的な評価結果

A	これまで当たり前になっていた保育の見直しを進め、より子どもの主体性を尊重した保育展開ができるようになった。特に、職員間の対話を通して子どもにとって望ましい環境のあり方や保育方法について最適解を導き出す営みに手応えを感じている。 今後も、子どもと保育者が響き合いながら保育できることを目指していきたい。
---	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価

A：十分達成されている

B：達成されている

C：取り組まれているが、成果が不十分でない

D：取り組みが不十分である

⑤ 今後取り組むべき課題

専門性の向上	ここ数年間は新型コロナウイルスの影響で、他園視察に出かけることができていなかったため、機会を確保
保育環境	認定こども園の特徴でもある、在園時間が異なる子どもたちへの配慮も含め、子どもたちの園生活を見直し、よりよい生活となるように工夫していきたい。

⑥ 施設関係者評価（自己評価の結果を踏まえて実施）

1. 環境について（園庭、園舎、ファーム）

《園庭》

- ・園庭を中心に、様々な環境が整っていることが有難い。卒業をすると余計に有り難みを感じる。部屋にも、子どもがやりたいと思えることをたくさん散りばめてくれているのが嬉しい。
- ・たくさんやりたいことがある我が子を見ると、有難い環境だなと改めて感じる。
- ・おひさまは少し規模が小さいので、もっと宮前の園庭に行きたいと言っている。

2. 保育内容について

- ・宮前の良さに惚れ込んでいる。子どもに無理をさせないところがいい。子どもがのびのび過ごせる場所になっていることがらしい。
- ・チャレンジ活動に向かう姿勢や子どもの気持ちを高めながら、向かわせてくれるところを見られた。子どもの意欲や、色々なことに向かっていく力の土台を作ってくれている。
- ・一人ひとりの子どもを見てくれているところ、自由にやりたいようにさせてくれているところが好き。
- ・先生たちの接し方が好き。全てが直接的ではなく、周りも巻き込みながら関わってくれている。
- ・おひさまはクラス替えがないところが、仲間意識が強く出るところが好き。

3. 職員について

- ・子どもたちが、先生を好き。
 - ・つくしんぼ教室から継続的に子どもを見てくれるのがいい。
 - ・子どものあそびに沿ってくれているところがすてきだと感じる。
- それだけではなく、集団であそぶ面白さや、あそびを引っ張っていってくれるところが良い。
- ・子どもが納得するまでとことん付き合ってくれているところが素敵だと感じる。
 - ・バス通園なので、お電話で話をしてくれる機会を作ってくれることも有難い。
 - ・大好きな先生たちが結婚等により退職していくのが寂しい。育休・産休で戻ってきてくれる先生もいるためそのような形になると嬉しい。

4. 今後に向けて

- ・あそびの時間を拡大してくださったことが有難いけれど、一週間前の締め切りが早い。仕事をしているとシフトを交代する等もあるので、締め切りを伸ばしていただけると助かる。
- ・大掃除は保育日数に含まれるのではなく、保育が終わった後に組み込んでもらえる则有難い。
- ・コロナ禍で参観が減ってしまったので、今後はもっと参観が増えるといいなと思う。
- ・お弁当については、意見が二極化。親子でお弁当を楽しみにする方、1回のお弁当でも大変だと感じる方もいらっしゃる。
- ・すくすく広場を充実していただけると、多くの子育て世代には有難いと思う。